

玉手山学園の建学の精神「感恩」

人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている

この真理に目覚め 感動 感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって

人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 豊かな未来社会をつくる

～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から 新しい「ありがとう」が生まれる～



玉手山学園の教学理念「夢と志」

夢中になることが見つかри 元気 やる気が出て

手応えあるワクワクする学校生活を送れる

私たちは「夢と志」を育てる We raise up dreams & wills.



玉手山学園の沿革

玉手山学園の歴史は昭和17（1942）年4月1日、山田藤一を理事長とする財団法人山田学園によって玉手山高等女学校が設立されたことに始まる。天地万象の恩を感じ、恩に謝することをもって人生の哲理とした創立者山田藤一は、学園の創設にあたって、教育の原点を「感恩」に求め、「感恩」を実践し得る人間の育成を学園の校是として掲げた。

以来、学園は時代の変遷の中で幾多の厳しい試練を克服しつつ、教育実践と不断の改革、革新を重ねて今日に至ったが、その歴史において校是「感恩」は単なる標語や観念論としてではなく、学園建学の精神として止揚され脈々と生き続け、平成9（1997）年開設の関西福祉科学大学の教学の原点になっている。学園小史をたどるとき、その経緯は明らかである。

昭和17年3月	財団法人山田学園設立認可 玉手山高等女学校設置認可
昭和23年4月	学制改革により玉手山高等学校に改称
昭和26年3月	学校法人玉手山学園に組織変更
昭和40年4月	玉手山女子短期大学（保育科）を開設 玉手山女子短期大学附属幼稚園を開設
昭和41年10月	玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称
昭和42年4月	関西女子短期大学 保健科を設置
昭和45年4月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院を開設 （昭和56年4月 関西女子医療技術専門学校へ移行開設）
昭和49年4月	玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称
平成9年4月	関西福祉科学大学開設 社会福祉学部社会福祉学科を設置
平成10年4月	関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称
平成13年4月	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻を設置
平成15年4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科を設置 関西福祉科学大学 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科を設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科心理臨床学専攻を設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻（後期課程）を設置
平成17年4月	関西女子短期大学 歯科衛生学科を設置（コースから学科へ）
平成19年4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科保育士養成課程を設置
平成22年4月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科を設置
平成23年4月	関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科（理学療法学専攻／作業療法学専攻）を設置 関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科保育士養成課程を設置 関西女子短期大学 医療秘書学科を設置 関西女子短期大学 医療秘書学専攻科を設置

平成25年3月	関西医療技術専門学校を廃止（大学・短期大学に発展的に移行）
平成25年4月	関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科 入学定員減 臨床心理学科 入学定員減 健康福祉学部健康科学科 入学定員減
平成25年9月	関西福祉科学大学総合リハビリテーション診療所を開設
平成26年4月	関西女子短期大学保育科を保育学科に改称 保健科を養護保健学科に改称
平成27年4月	関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻を設置
平成28年4月	関西福祉科学大学社会福祉学部臨床心理学科を心理科学部心理科学科に改組 関西福祉科学大学教育学部教育学科（子ども教育専攻／発達支援教育専攻）を設置 関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科入学定員減 関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科保育士養成課程 募集停止 関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科保育士養成課程 募集停止 関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 入学定員増
平成29年3月	関西福祉科学大学特別支援教育専攻科を廃止 関西女子短期大学医療秘書学科介護福祉コースを廃止（大学に発展的に移行）
平成29年4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科介護福祉士養成課程を設置
平成30年3月	関西女子短期大学 医療秘書学専攻科を廃止
平成30年4月	関西女子短期大学附属幼稚園を認定こども園関西女子短期大学附属幼稚園に移行
令和元年8月	関西福祉科学大学 総合リハビリテーション診療所を整形外科リハビリ診療所に改称
令和2年3月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科を廃止
令和4年3月	関西福祉科学大学 教育学部教育学科 子ども教育専攻を廃止（発達支援教育専攻に移行）
令和4年4月	関西福祉科学大学 教育学部教育学科 発達支援教育専攻を子ども発達教育専攻に改称
令和5年4月	関西女子短期大学 専攻科 口腔保健学専攻を設置
令和6年4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部 社会福祉学科を福祉創造学科に改称
令和7年4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部福祉創造学科 編入学定員減 心理科学部心理科学科 編入学定員減 健康福祉学部健康科学科 編入学定員減 健康福祉学部福祉栄養学科 編入学定員減
令和8年4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部福祉創造学科 入学定員減 心理科学部心理科学科 入学定員減 健康福祉学部健康科学科 入学定員減 健康福祉学部福祉栄養学科 入学定員減 保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻 入学定員減 保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻 入学定員減 保健医療学部リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 入学定員減 教育学部教育学科 入学定員減

関西福祉科学大学の教育理念、教育目的

《関西福祉科学大学の教育理念》

関西福祉科学大学は、建学の精神「感恩」を心得、実践する人を育成し、豊かな未来社会をつくる。その達成に向け、教学理念「夢と志」を根幹として、良質の教育活動と、活発な知的創造・研究活動を行う。

《関西福祉科学大学の教育目的》

関西福祉科学大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神「感恩」及び教学理念「夢と志」に基づき、専門の学芸を教授研究し、幅広く深い教養及び総合的な判断力と豊かな人間性を培い、全ての人々のウェルビーイングを支える人材を育成することを目的とする。

関西福祉科学大学大学院の使命、社会福祉学研究科の教育理念・目的

《関西福祉科学大学大学院の使命》

関西福祉科学大学大学院は、建学の精神「感恩」を心得、実践する人を育成し、豊かな未来社会を作る。その達成に向け良質の教育活動と、活発な知的創造・研究活動を行う。

《社会福祉学研究科の教育理念》

福祉科学を支える「臨床福祉」の精神

福祉とは、人間生活における個人の尊厳を保障し自己実現を目指す社会的営為であり、福祉科学とはまさにそのような社会を構築するための知識と技能の総合科学であり、その実践を支えるものが「臨床福祉」の精神である。

社会的営為としての福祉は常に人間関係において成立するものであるが、我々は、そのような福祉的人間関係の本質を「臨床福祉」の精神に求める。すなわち「臨床福祉」とは「支援するものとされるもの」が、同じ地平において出会い、互いの人格を認め合い共感し、自らの将来に意欲を持って立ち向かうように支援することを意味するものであり、臨床福祉の精神が目指すものは単なる負の克服にとどまらない、より高次の積極的価値の生成である。

本大学院の目指すところは、人間の幸せを育て未来を拓く福祉科学の探求である。21世紀の福祉社会構築の一翼を担う者に必須の《こころ》に支えられた《知》と《技》を究め、経験的事実を基礎とする近代科学の成果の上に立つ緻密かつ厳密な検証と創造を通じてマイクロレベルにとどまらず、メゾ、マクロレベルでの福祉の推進や福祉理論の生成へ繋がれていくことを期するものである。

《社会福祉学研究科の教育目的》

福祉社会を実現するために必要な高度な理念、知識、技能を教授し、人の幸せの実現に貢献できる高度専門職業人および専門職業人に対するリーダー・スーパーバイザー、ならびに研究者を養成し、福祉社会の構築に還流することを目的とします。

臨床福祉学専攻の博士前期課程では、社会福祉の高度な理念、知識、技能を修得し、臨床場面において高度なレベルの対人支援を行うことのできる社会福祉実践のリーダー、専門職業人を養成します。また、博士後期課程においては、臨床福祉学の教育と研究に従事しうる高度な知識と学識を有し、臨床福祉に関する研究の実施および指導のできる教員、研究者を養成します。

心理臨床学専攻の修士課程では、心理学全般の専門的知識と技能を基礎にして、教育、医療、福祉、産業、司法の臨床領域で心理支援を行う高度専門職業人の養成を目指します。

臨床福祉学専攻 博士前期課程の教育目的、

ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

臨床福祉学専攻 博士前期課程の教育目的

2年間の在学期間を通して、社会福祉の理論と方法の統合をめざすとともに、講義と実習で身につけた実践理論と経験を基に、対人支援の価値と支援技術のみがき、修士論文作成を通して調査を含むエビデンスに基づいた理論構築の力を深め、社会福祉実践のリーダーを養成することを目的としています。

ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)

臨床福祉学専攻博士前期課程では、教育目的に照らして、学生が身につけるべき資質・能力を以下のとおり定めます。本専攻・課程の教育課程が定める授業科目を履修し、修了に必要な単位を修得し、修士論文を作成して最終試験に合格した者に対して修了を認定し、修士の学位を授与します。

【知識・技能】

- (1) 対人援助のための幅広い教養が身につけている。
- (2) 臨床福祉学に関する基礎的な文献、学説について理解できる。
- (3) 臨床福祉学の価値に根ざしてさまざまな方法を駆使できる。

【思考力・判断力・表現力】

- (1) 自らの考えを根拠にもとづいて論理的に展開できる。
- (2) 臨床福祉学に関する基礎的な文献、学説を適切にレビューできる。
- (3) 援助者としての気持ちや考えを利用者に適切に伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

- (1) 研究倫理を遵守し主体性・多様性・協働性に配慮した研究をデザインできる。
- (2) ソーシャルワーカーの倫理綱領を遵守し社会資源が適切に機能する支援システムを構想できる。
- (3) 臨床福祉学の基盤である尊厳や人権、社会正義を軸に主体性・多様性・協働性の重要性を分かちあうことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

臨床福祉学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた学生が身につけるべき資質・能力を養成し、専門性をもった倫理性の高い高度専門職業人を育成するため、以下のような方針でカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 教育の内容・方法

学士課程で修得した能力をブラッシュアップするために「基幹科目」「研究領域科目（アプローチ・支援方法、制度・サービス、研究方法）」「研究演習科目」というように講義、演習、実習を体系的に組み合わせている。

2. 学修成果の評価

- (1) 研究指導計画にもとづく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査は、別途定める「学位論文評価基準」にもとづき行う。

3. カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシーに掲げた学生が身につけるべき資質・能力と各授業科目の関連性をカリキュラムマップに示す。

臨床福祉学専攻 博士後期課程の教育目的、

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

臨床福祉学専攻 博士後期課程の教育目的

臨床福祉の領域における高度の理論、調査を含むさまざまな方法を身につけ、大学・大学院における教育と研究、あるいは各種研究機関における調査・研究のエキスパートになり得る人を養成することを目的としています。

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

臨床福祉学専攻博士後期課程では、教育目的に照らして、学生が身につけるべき資質・能力を以下のとおり定めます。本専攻・課程の教育課程が定める授業科目を履修し、修了に必要な単位を修得し、博士論文を作成して最終試験に合格した者に対して修了を認定し、博士の学位を授与します。

【知識・技能】

- (1) 対人援助者・研究者にふさわしい教養が身につけている。
- (2) 臨床福祉学に関する専門的な文献、学説について理解できる。
- (3) 臨床福祉学の価値に根ざしてさまざまな研究・援助の方法を駆使できる。

【思考力・判断力・表現力】

- (1) 自らの考えを根拠にもとづき論理的かつオリジナリティをもって展開できる。
- (2) 臨床福祉学に関する専門的な文献、学説を適切にレビューできる。
- (3) 援助者・研究者としての気持ちや考えを相手に適切に伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

- (1) 研究倫理を遵守し主体性・多様性・協働性に配慮した研究を主宰できる。
- (2) ソーシャルワーカーの倫理綱領を遵守し社会資源が適切に機能する支援システムを構築できる。
- (3) 臨床福祉学の基盤である尊厳や人権、社会正義を軸に主体性・多様性・協働性の重要性を分かちあうことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

臨床福祉学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた学生が身につけるべき資質・能力を養成し、専門性をもった倫理性の高い高度専門職業人を育成するため、以下のような方針でカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 教育の内容・方法

修士課程で修得した能力にさらに磨きをかけるために「特殊講義科目」と「研究演習科目」を組み合わせている。

2. 学修成果の評価

- (1) 研究指導計画にもとづく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査は、別途定める「学位論文評価基準」にもとづき行う。

3. カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシーに掲げた学生が身につけるべき資質・能力と各授業科目の関連性をカリキュラムマップに示す。

心理臨床学専攻 修士課程の教育目的、

ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

心理臨床学専攻 修士課程の教育目的

さまざまなこころの問題を背負っている人々を支援するために、心理臨床学専攻では家庭、学校、コミュニティ、医療、産業、司法において心理支援をおこなえる高度専門職業人および心理臨床家の養成を目指しています。

授業に加えて学内外の実習を通して心理アセスメントと心理支援など、さまざまな臨床教育と経験を提供します。また、修士論文の作成を通して、研究の実践を行います。

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

心理臨床学専攻修士課程では、教育目的に照らして、学生が身につけるべき資質・能力を以下のとおり定めます。本専攻の教育課程が定める授業科目を履修し、修了に必要な単位を修得し、修士論文を作成して最終試験に合格した者に対して修了を認定し、修士の学位を授与します。

また、保健医療、福祉、教育、司法、産業の分野での心理学の専門的国家資格である「公認心理師」の養成を目指します。

【知識・技能】

- (1) 医療、福祉、教育、司法、産業の分野での対人援助のための幅広い教養が身につけている。
- (2) 心理臨床学に関する基礎的な文献、学説について理解できる。
- (3) 心理臨床学の価値に根ざしてさまざまな方法を駆使できる。

【思考力・判断力・表現力】

- (1) 自らの考えを根拠にもとづいて論理的に展開できる。
- (2) 心理臨床学に関する基礎的な文献、学説を適切にレビューできる。
- (3) 支援者としての気持ちや考えを対象者に適切に伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

- (1) 研究倫理を遵守し主体性・多様性・協働性に配慮した研究をデザインできる。
- (2) 心理支援者の倫理綱領を遵守し、心理状態の分析、相談と助言・指導、支援者の支援、知識普及を構想できる。
- (3) 心理支援の基盤である心の健康の保持増進を軸に主体性・多様性・協働性の重要性を分かちあうことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

心理臨床学専攻修士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた学生が身につけるべき資質・能力を養成し、専門性をもった倫理性の高い高度専門職業人を育成するため、以下のような方針でカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 教育の内容・方法

学士課程で修得した能力をブラッシュアップするために「研究基礎科目」「研究演習科目」というように講義、演習、実習を組み合わせている。

2. 学修成果の評価

- (1) 研究指導計画にもとづく研究指導および学位論文作成指導によって把握する。
- (2) 学位論文の審査は、別途定める「学位論文評価基準」にもとづき行う。

3. カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシーに掲げた学生が身につけるべき資質・能力と各授業科目の関連性をカリキュラムマップに示す。